別紙１

令和２年　３月１５日

令和元年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川西中学校
校長　相澤　仁志

１　目指す学校像　　「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」

２　評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	（７）4	連絡等を通じ「情報を共有」し、共通理解の下に生徒の理解と指導に全職員で当たっている。	A 89%	・生徒　⇔　保護者、生徒　⇔　教員の関係を豊かなものにするよう心掛ける。 ・生徒の小さな変化に、教員が気づくことが大切である。積極的な生徒指導を行っていく。	・生徒指導のリーダーシップをとる教師の存在が重要である。 ・生徒指導が機能しているか否か、生徒と一緒になってという姿勢が大事である。 ・ＰＴＡとも協力し、地域や家庭との連携を進め、生徒の育成に取り組んでいる。 ・評価に対し具体的な改善例とその公表が必要である。
	（６）4	保護者や外部による評価を実施し、取組の充実改善を図っている。	B 83%	・学校評価を計画的に実施していく。 ・学校自己評価、保護者アンケートをもとに分掌部会を開き、改善案を提案していく。	
学習指導	（１）1	生徒の学ぶ意欲を喚起するよう､わかる授業を行うようにしている。	B 82%	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善に取り組んでいく。	・参観したどのクラスでも生徒が意欲的に授業に臨んでいた。 ・生徒がよく考え、協働して学習している様子が授業参観を通してわかった。
	（１）7	学力向上のためにテスト前、及び休業日の補習を実施している。	B 73%	・夏季休業中の補習の意図を確実に保護者に伝える。 ・テスト前の質問日を確実に生徒に伝え、前向きな参加を促す。	
生徒指導・教育相談	（７）2	生徒の観察等を通じて不登校や問題行動の早期発見に努めている。	A 92%	・日頃から、生徒とのコミュニケーションを密にし、小さな変化に気が付くようにする。 ・学期ごとの生活アンケートを効果的に活用していく。	・いじめ、不登校、特別な支援を要する生徒への組織的な対応に取り組んでいた。今後も不登校やいじめ等、早期発見に適切な対応を進めていただきたい。 ・ＯＷＳＵＰ（西中サポーターズ）の活動により地域の連携は行われている。 ・地域の中での自分の役割を実感し、地域の一員としての自己を認識し、その大切さを生徒に感じさせたい。
	（７）5	地域や家庭との連携・協力に努め生徒の健全育成を推進している。	A 91%	・今後も、ふれあい講演会で地域の人材を活用していく。 ・「地域にどのような人がいるのか」「どのような施設があるのか」「どのような形で施設が利用できるのか」について情報共有を図る。	
健康教育	（３）2	健康教育の充実を図るため年間計画に沿って指導している。	B 83%	・保健だよりや校内掲示、職員からの声掛け等をこまめに行い、規則正しく、健康的な生活習慣・環境作りへの意識を高めた。 ・虫歯治癒率状況、手洗いや歯磨きの効果等、健康に関する掲示物の充実	・体育祭では、生徒たちが全力で競技に取り組んでいた。 ・自分自身の生活や心身の状態について捉る、運動と健康を自己評価し、食欲、排便、睡眠と運動のバランスを考えさせることが必要である。

				を図った。 ・学校保健委員会や生徒集会使って、健康教育の成果を発表した。	
	（3） 3	食に関する指導を推進し、給食指導を充実させている。	A 86%	・各教科で食に関する指導を意識した授業を計画していく。 ・給食委員を中心とした給食指導を、これからも継続していく。	
学習環境	（5） 1	きれいな学校を目指し「清掃活動」「ボランティア活動」の向上に取り組んでいる。	A 88%	・クリーン活動（環境委員会）、クリーンボランティア　（生徒会）を継続していく。 ・日常の活動場所周辺を部活動で割りあて、環境整備に努める。	・生徒の廊下を黙々とふく姿に感動しました。 ・生徒による除草作業の機会を多くしたほうがよい。 ・校内外の清掃が行き届いており、快適な環境を整えている。 ・ボランティア活動等がしっかりしているので良いと思う。 ・高校の部活動の新聞記事を掲示するなど工夫されている。 ・廊下等の展示物は活動的な学校生活を感じる。
	（5） 3	きれいな掲示や展示で心豊かな教室環境、学校環境づくりを行っている。	A 87%	・学活の時間の確保し、掲示物作りを充実させる。 ・廊下の掲示指導をさらに工夫していく。	
教職員の資質向上	（1） 2	学習形態や指導法の工夫と改善を行っている。	A 84%	・新学習指導要領の実施に向け、準備を進めていく。 ・教科会を定期的に開き、生徒の実態に合わせた授業改善を図っていく。	・生徒自身の知識と技能、思考力、判断力、表現力を伸ばし、学びの姿勢、人間性の醸成を強く指導していただきたい。 ・日々の先生方の指導方法が生徒にとって適切であることを期待したい。 ・個別の支援をするための部屋（学習支援室）とさわやか相談室があるところが素晴らしい。
	（7） 1	生徒とのふれあいや教育相談の充実で、生徒理解に努めている。	A 91%	・教育相談部会、生徒指導委員会を定期的に開催しし、今後も、学年、学級、個々の生徒の様子を共有していく。 ・個に応じた教育相談の一層の充実を図る。 ・生活ノートを通じた生徒とのやりとりを充実させていく。	
家庭・地域との連携	（6） 1	学校便り、学年通信、学級通信を発行し理解や信頼が得られるようにしている。	A 89%	・学校だより、学年通信を定期的に発行して、情報発信を行った。学校便りについては、地域にも配付した。 ・ホームページについては、更新の頻度を高めていく。	・西中だより等により、学校の様子がよくわかる。学校公開の機会が多く、保護者との連携による復活の西中祭をはじめ、素晴らしい取り組みを数多く拝見している。 ・ＨＰの更新がやや少ないので充実させた方がよい。
	（6） 5	積極的に学校公開、授業公開を行い理解と信頼を得るようにしている。	A 89%	・１学期２回、２学期３回、３学期２回を、学校公開日として広く参観の場を設定した。 ・今後も、保護者とのコミュニケーションを様々な形で深めていくよう心掛ける。	